

浅野誠

南城を歩き、 景観を楽しむ

2012～2015年

2018年2月に掲載した「南城2013～2017年」の続編です。南城市内のあちこちを歩きました。高齢者でも行けるような危険のないところに限りませんが、ほぼすべてを回りました。

その際に、ブログ「沖縄南城・人生創造・浅野誠」に掲載したものをまとめてみました。写真中心のものです。お楽しみください。

2018年3月編集発行

目次

※項目右側の年月日は、ブログ掲載日です。掲載日の新しいものから古いものへの順にならべてあります。

グスクロード散策	2015年11月5日
百名のビンギ 巨木。名木	2015年7月25日

南城散策	2014年12月29日～2015年5月23日
------	------------------------

- 1.大里 アトールを起点に
- 2.糸数
- 3.糸数、喜良原、屋嘉部
- 4.大里城址付近
- 5.平川集落と饒波川周辺
- 6.営間 銭又 平川
- 7.大里グリーンタウン 稲嶺周辺
- 8.営山 志堅原
- 9.団地の変化 歴史の味わいをつくれるか
- 10.湧稲国 目取真
- 11.大城グスク 稲福遺跡 南風原食栄森御嶽 平良
- 12.大里をすべて回り終える 古堅 嶺井 福原 島袋
- 13.津嘉山 当添 百名のウフグスク 志喜屋グスク
- 14.愛地 船越
- 15.前川 堀川
- 16.親慶原 喜良原 大城ダム 垣花 玉城完了
- 17.つきしろ 志喜屋 山里 具志堅
- 18.道のいろいろ
- 19.知念
- 20.久手堅 吉富 知念岬
- 21.久手堅から安座間へ 運玉森
- 22.知名 津波古
- 23.海野 久原 仲伊保
- 24.富祖崎 仲伊保団地 屋比久 伊原 手登根 外間
- 25.手登根 佐敷 兼久 新里
- 26.小谷 新里 新開 南城全域散策完了
- 27.南城散策の振り返り 1 地図
- 28.南城散策の振り返り 2 地域・集落の境 景観 畑 出会い

グスクロード タマグスク 玉城青少年の家 グスクロード公園	2014年11月7日
尚布里、尚布里子、尚泰久の墓	2014年4月30日
うん十年ぶりの1日友たちの訪問 久高訪問	2014年3月15日

浅野誠 南城を歩き、景観を楽しむ 2012～2015

中山・富里・奥武・玉城。百名。新原・グスクロード一帯の散策路	2014年2月26日
ヤハラヅカサ往復 8000 歩散策	2014年2月6～7日
佐敷干潟風景	2014年2月4日
玉城青少年の家・グスクロード・タマグスクを通る新散策道	2014年1月31日
2013 南城市ウォーキング大会 in 大里	2013年12月15日
私の散策路 字玉城→山の茶屋→天空の茶屋→字百名(新原)→国道 331 号線	2013年3月28日
無料電動サイクルで、ユインチホテルと大里城址とを往復する	2013年11月14日
春の奥武島風景	2012年3月26～31日
1.アーサ	
2.イノー ツツジ	
3.龍宮周辺	

グスクロード散策

2015年11月5日

涼しくなり、風もさわやかで、空も高く感じる季節、つまりウォーキングに絶好の季節になってきた。

昨年12月から今年5月には、南城市全域ウォーキングをしたが、これからはどうしようかな、と思案中だ。一人ウォーキングもいいが、たまには道連れウォーキングもいいと思う。この記事を読んだ方で、何かご提案があれば嬉しい。

さて、1日には、我が家からグスクロードを歩く5900歩の長距離ウォーキングをした。

我が家→グスクロードまでの急坂を登る→タマグスク近くのドコモ塔横のグスクロード(中左写真 写真中央の電柱の間がタマグスク)→グスクロード公園→富里公民館への階段道→旧道→中山 というコースだ。

急坂は、ジグザグで上ったり下ったりする。

トピック1 上り急坂は字作業の草刈するところだが、道路に沿って新しい網がかけられた場所があった。不法投棄防止用のようだ(右写真)。下には、大型冷蔵庫など不法投棄物をいっぱい見る。

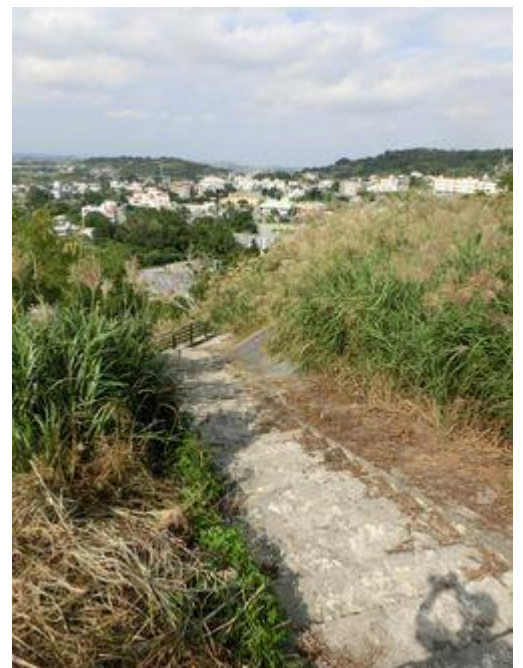


トピック2 上り急坂で、ウォーキングをする若いカップルに出会う。ここを歩く人は珍しい。聞けば那覇からだとのことで、リピーターになっているようだ。



トピック3
グスクロード公園に、健康器具セットが設置されている。さっそく試してみる。(左下写真)

トピック4



富里に降りる階段の周囲の草刈がされていて、歩きやすい。一か月前の青年芸能祭の時、草が伸び放題で困ったのとは大違いだ。(前ページ右下写真)

右写真は、グスクロード公園から富里に下りる道から見た摩文仁方向。



百名のビンギ 巨木・名木

2015年7月25日

先日、30年以上の付き合いの卓球仲間が、突然の来宅。



実は、彼は西原町の中央公民館の館長をしている。中央公民館主催の「いきいきシニア講座 文教大学 沖縄の巨木・名木巡り」企画の事前コース視察の途中だった。

百名のビンギを見に行く所だとのこと。私も便乗して、見に行った。私は全く知らなかったもので、よい機会だった。

実に立派な木で、樹齢は200年とのことだ。ビンギと呼ばれているが、クワノハエノキが植物名で、葉が桑の葉に似ているが、エノキの仲間ということだ。戦火を耐えて、よく頑張っていると思う。

企画のコースには、この近くでは、久手壁の大アカギ(p31で紹介)、安座真のサキシマスオウノキ、具志頭のガジマルとフクギ、与那原のアカギが入っている。

シマスオウノキ、具志頭のガジマルとフクギ、与那原のアカギが入っている。



南城散策

2014年12月29日～2015年5月23日

半年にわたって、南城全域をまわった。

1. 大里 アトールを起点に

私の散策は週3～4回だが、10年も歩いていると、我が家周辺はほとんど周り尽くした感じだ。

そこで、車で出かける時、用件先に車をしばし置いて、その周辺散策をすることにした。

思い立った最初は、いつも買い物に行くJAスーパー「アトール」からだ。大里の中心地にあるが、その周辺は、きちんと歩いたことがない。

まず、スーパー裏の農協横で、道が左右に分かれる。左に行く。するとすぐに県道に出てしまう。かまわず歩き、役所ではない方向にいくと、仲程公民館に出る。その前に、JOY工房というのがあったので、入る。



Caféもかねていて、「さし草そば」をしているというので、予約してしばし散策。案内された通りに、急階段を昇り、丘の上に行くと、仲程の拝所がある。すぐ隣が市役所だった。市役所の裏に、こんな自然があるとは知らなかった。

左写真は、その丘からの下り道。風情がある。仲程の集落内をしばし歩く。時間を感じさせる、いい集落だ。

集落内に、我が家同様、ブーゲンビリアに覆われた家があった。我が家と違い、横に広がっており、今が満開状態だ。

歩いた後、JOY工房にもどり、そばを味わう。沖縄そばのスタイルではなく、ざるそばの感じ。なかなかいける。さし草を使った草木染もしておられる。さし草は、アワダチセンダングサなどの総称。生命力旺盛、どこにでも溢れている。そばを通ると、種がいっぱい衣服について嫌われる。しかし、戦後食糧難の際、活躍したし、薬用効果もあるらしい。

ユンタクがはずむ。恵美子はさし草に夢中になる。早速、私が我が家周辺でとった大量のさし草を洗い、なにかを作る準備を始めた。

右写真は、オーナーとJOY工房。





J O Y工房で話が弾み過ぎて、買い物の時間が無くなってしまった。

そこで翌日、私一人でもう一度出かける。今度は、地図で確かめておく。アトール裏に出て、今度は右方向に行くと、大里南小学校。そこから、大里ニュータウン方向へと歩く。大里ニュータウンを抜けて、上へと昇っていくと、玉城牧場が見える。(左写真)

玉城牧場を越えて、さらに上っていくと、真境名集落にでる。そこを右に曲がり県道をしばし歩く。そして、右に折れて畑・森の間を抜けていくと、大城と仲間を結ぶ県道の途中に出る。しばらくいくと、

県営団地のそばにつく。ハルサー市があるところから、歩いてきた方向を見る。(中左写真)

そして、逆の市役所方向を見る(中右写真)。

役所の展望塔の右側が、前日行った仲程の拝所のある丘だ。

無事アトールに戻り、買い物をして帰る。

両日ともに、5000歩ぐらいの散策になった。



2. 糸数

糸数グスク、アブチラガマ、ベジタリカ、彩などと、糸数には合計すれば20回は訪問している。しかし、周辺を散策したことはない。



まずアブチラガマのある南部観光センターに車を置く。我が家から3.5キロだ。そこから、集落の北西側へと歩く。集落と畑の境目だ。

私を迎えてくれたのは、ミサゴ(ツミのようだ・・・編集時点での追記)

我が家周辺にも、日常的に住んでいる。つい最近まで名前が分からなかった。鷲鷹の仲間であることは分かっていた。鳴き声特徴的だ。写真をとろうとして

近づくとすぐに逃げられる。でも、糸数のミサゴは、20メートルあたりまで近づけた。カッコいい鳥だ。

集落を回るようにして散策を続ける。

右写真は、集落の北西端から、西方向を見る。那覇から豊見城、そして糸満まで見渡せる。そして沖には慶良間が見える。写真では鮮明ではないが、



中左写真は、同じ場所から糸数グスク方面を写す。左の方に、气象台が見える。

写真を撮ったあたりに、海上保安庁の施設がある。

集落を抜けて、グスク方向へと歩む。グスク途中で、



伝説の比嘉ウチョウの墓に会い、ご挨拶をする。中右写真は、グスクで最初に出会う城壁。なかなか面白い。糸数グスクは、切石積と野面積の両方が見られる。復元工事がゆっくりと進行している。



城壁を通り抜けていくと、突然出会ったのが左写真。

帰宅後ガイドブックを見ると、根石グスクとある。グスクというより御嶽ないしは拝所といった感じ。詳細は、今後学習しなくてはと思う。

そこをさらに進むと、气象台。テレビ報道などでおなじみの南城市糸数の気象情報を観測しているところだ。このあたりで一番高いグスクの隣の一番高いところにあるから、気温も寒く、風速も

浅野誠 南城を歩き、景観を楽しむ 2012～2015
強めに観測するのだろう。私の住む中山より2～3度低く、風速も10メートル以上強いように感じることが多い。

あたりをぐるっと回って、元に戻る。5000歩余りの散策となった。



3. 糸数、喜良原、屋嘉部

大晦日には、糸数のグスクロードに車を置いて、サトウキビ畑を喜良原へと歩く。

畑と森の向こうには、ユインチホテル、そのまた向こうには、中城湾を越えて西原などの中部が見える。

振り返ると、糸数グスクと气象台が見える。

畑のなかを北方向にすすむと、喜良原に出る。喜良原交差点を南方向へと曲がる。急坂を上りきって、西方向にすすむと、仁愛療護園の裏手に出る（下右写真は、そのあたりから糸数方向を見る）。再びグスクロードに戻り、付近の畑地を散策して、もとに戻る。ほぼ5000歩だ。

元日は、玉城国民運動場に車を置いて、屋嘉部集落を通過して、糸数の体育館までの往復コースを歩む。このあたりは車でよく通るが、歩いたことはない。車道は好きではないので、横道で車が通りそうもないところを中心に歩く。



浅野誠 南城を歩き、景観を楽しむ 2012～2015

糸数体育館からの景観は素晴らしい（前ページ下左写真）。加えて、雲と光のドラマが見られた。写真は、南西の摩文仁方向だ。

帰りは、広い道路横の自転車道を歩く。しかし、自転車どころか人も通らないほど、草が生い茂り、ひび割れたアスファルトもある。尚巴志マラソンが利用する部分の自転車道はきれいだが、ここは見向きもされない感じだ。せっかく作られた自転車道が可愛そうに感じる。

ほぼ5000歩コースだ。

4. 大里城址付近

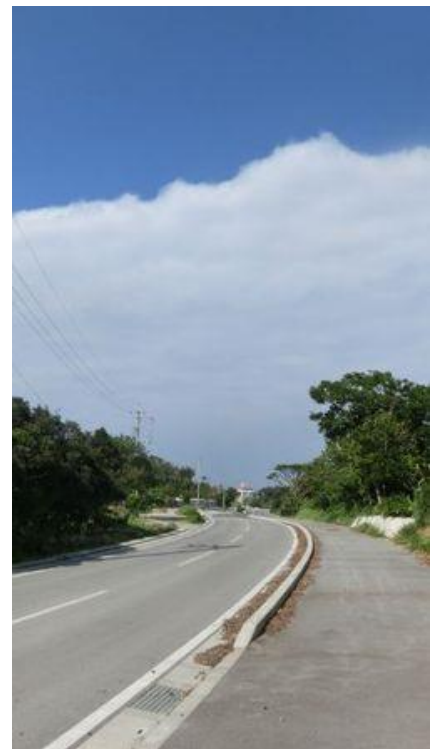
ユインチホテルから大里城址への自動車道が最近開通したが、まだ通ったことがなかったので、行って見た。同じ経路の旧道は、以前自転車で通ったことがある。

道路途中で車を置いて、大里城址にある西原集落までの往復を歩く。

右写真は、新しい道路

下左写真は、大里城址前のチチンガーへと降りる石階段

下右写真は、ミーグスク展望台からパークゴルフ場方向を見る





上左は、ミーグスク展望台。知念半島や中城湾を見渡す絶好ポイント
上右は、ミーグスク脇の拝所



5. 平川集落と饒波川周辺

大里の軽便駅への買い物ついでだ。軽便駅近くの信号交差点から平川集落にはいり、イオンタウン近くで折れて、饒波川沿いの道を下る。(左写真)

饒波川は、大里城址あたりが源流で、八重瀬・豊見城を通過して、古波蔵あたりで国場川と合流して、漫湖となり、海に注ぐ。沖縄にしては結構長い川だ。

川沿いに歩いていると、川沿いの家の屋根に山羊が住んでいる。面白い光景だ。こういう飼い方もあるものだと感心する。

中右写真は、川沿いから平川集落を見る。
そして、反対方向の大里グリーンタウンを見る。逆光線で、タウンが見えにくい。





さらに市役所大里庁舎方向を見る

こうやって歩いている姿を知人に目撃されることがある。先日、稲福あたりを歩いていた時もそうだ。その時は、こんなところを歩いているなんて、とびっくりされたようで、後日声をかけられた。

いろんな出会いがありそうだ。

4月はじめまでは続けたい。4月下旬からは暑くなるので、昼間の遠出は難しくなるだろう。

いまどきの散策の敵は、PM2.5。おそらく中国大陸で発生したものが、この時期に海を渡って沖縄の空を覆う。17日は注意レベルを越えたとの新聞報道があった。私はこうしたものにてきめに反応する。今日からはマスク着用で散策だ。加えて、目もショボショボする。

6. 當間 錢又 平川

19日の散策。1時間ほどの長距離コースを歩く。

大里中学校の近くから當間集落を通過して、広々とした畑を北西方向へどんどん歩く。少し道を間違えたが、左下写真は、畑から南方向の當間集落、そして市役所大里庁舎方向を写す。

途中で南西方向に折れて、錢又集落を通る。右下写真は、西方向を見たもの。空港自動車道の向こうに南風原の喜屋武集落と黄金森が見える。

錢又集落公民館を越えて、平川へとつながる農道を歩く。今回はほとんどが農道だ。おかげで、自動車に出会うことはほとんどない。



牛舎があり、牛さんと出会う。

東に折れて丘陵地帯の広々とした畑地を越えると、平川集落の端に出る。下写真は、そこから、南方向の稲嶺あたりを見る。左端が大里グリーンタウンだ。

そこで、同じく散策中の知人と出会う。12月末から始めたこの散策で、初めての知人との出会いだ。かれはウォーキングのプロだ。以前のウォーキング大会で一緒になったことがある。このあたりは、彼のいつものコースのようだ。そこから市役所方向の道を教えてもらう。歩きながらウォーキング談義。楽しい語らいだ。



7. 大里グリーンタウン 稲嶺周辺

週に、1, 2回は、車で出かけて、南城市内の歩いたことのない場所を歩いている。今は、玉城と大里が中心だ。今回は、大里の大里グリーンタウンや稲嶺周辺だ。起点は、イオンタウンや軽便駅。そこで買い物をして、散策を加える形にしている。

大里グリーンタウンには、知人もいるが、初めての訪問だ。できてから30年余り経つのだろうか、味が出てきている。各家の緑や色鮮やかな花々も美しい。下から上って、団地の端近くまで行って戻る。

上左写真は、平川の上部から見たグリーンタウン。大きな団地だ。上右写真は、グリーンタウンから見た大里中心部。



左写真は、これまた平川上部から見た、稲嶺の畑

浅野誠 南城を歩き、景観を楽しむ 2012～2015



軽便駅から南に広い畑を突き抜けていく途中で、先日紹介した饒波川



に出会う。おりしも水鳥が泳いでいる。右写真

サボテンとドラゴンフルーツの畑がある。左写真

稲嶺の集落の中を歩く。そして、稲嶺の一番高い所にある拝所と展望台に立ち寄る。

下写真は、稲嶺バス停から見た稲嶺集落

大里は、広々とした畑地帯がある。ところどころに畜舎もある。そしていくつもの団地があり、都市化が進む中心部がある。賑わいを感じる。



8. 當山 志堅原

今回は、玉城で、我が家近くだ。

まず當山。役所に所用で出かけたついでに回る。郵便局交差点近くから、階段から始まる道を下りて、當山の畑地へ。右手には、屋嘉部や糸数の新しいアパート群が見える。このあたり、最近アパート建設ラッシュだ。

當山の畑は、日常通る道路からは見えにくいですが、中に入るとかなり広い。



浅野誠 南城を歩き、景観を楽しむ 2012～2015

當山の畑地の南の方角には、堀川・港川、そして太平洋が見渡せる。(前ページ下左写真)

畑から當山集落を見る。(前ページ下右写真)

畑から集落内を通過して、役所駐車場まで戻る。
3500歩と、私の散策としては短い。

別の日、我が家から歩いて、志堅原の畑地へ。途中までは、いつもの中山の畑のなかの散策道。奥武入口から奥武に至る道路を渡ると、志堅原の畑だ。

まず大きなガジマルが目につく。右写真。

どんどん行くと、オオシロ樹木あたりまで行く。志堅原の畑地一帯を見渡す。ここも結構広い畑地だ。(中左写真)



畑地の端には、オーボエ工房ヨーゼフや秀工房（陶器）がある。(中右写真)

そこから引き返し、集落の中を通過。



集落の端から奥武への道路に出るあたりになると、中山が見える。

左写真右端は、奥武橋の隣のマルミネ・マンション。マンションのすぐ左に我が家が小さく写っている。

海岸を通過して、我が家へ戻る。合計5300歩

9. 団地の変化 歴史の味わいをつくれるか

年末から、順調に新散策コースを歩いている。週2～3回ぐらいだろうか。大里地区と玉城地区の三分の二ぐらいは回り終えた。5月ごろまでには、両地区を終えたい。夏になると、佐敷や知念地区まで足を伸ばすだろうが、日射を避けるため、少し時間がかかるかもしれない。

散策中に会うもの、発見するものがいろいろと出てきた。散策コース報告だけでなく、発見について時折書いていきたい。

まず、団地についてだ。団地にもいくつかのタイプがあるが、今回は、一戸建てを中心にした団地について書くことにする。南城市内にはそれほど多くない。規模にもよるが、人口1000人を超すようなところは、大里グリーンタウンだけかもしれない。大里ニュータウンは、1000人に達するかどうかは知らない。先日は、南城市に隣接する八重瀬町の屋宜原団地も歩いてみた。

そういえば、私は、沖縄の団地の草分けの一つである西原の小波津団地の二戸連住宅に1970～80年代住んでいた。

まず団地がいつスタートしたかどうかで、趣きが異なる。

スタートして、20年30年たったところは、何か風情というか、歴史を感じる。家々が、通りを含めて相互に馴染んでいる。各家の庭とか樹木・花壇・植木鉢などが落ち着いた風情を出している。

住んでいる方々も、50代以上の方々が多いい感じだ。1970年代80年代の団地では、道路で遊ぶ子どもたちが目立ったが、今それはない。新しい団地にしても、子どもを見かける機会は少ない。もともと、私が散策するのが昼間だから、そうなるのかもしれない。

スタートして10年に満たない団地の印象は、建築家の個性が丸出しという印象だ。デザイン性が豊かなのだ。陸屋根二階建てに似た形の建物が並ぶ70年代とはかなり様相が異なる。建築士の凝った設計によるものが目立ち、住宅宣伝冊子の実物が並んでいる印象だ。個性があるだけに、各家の主張が強すぎて、建物相互の景観の調和という課題がある印象を受ける。団地全体としての景観をどうするか、という点での弱さを感じるのだ。それと、新しいだけに、植木が未成長で、コンクリートや建材の色が前面に出る。今後植生がしっかりしてきて、緑が増えたら、どんな風になるだろうか。

そんなことを考えていると、1999年に住んでいた、カナダのトロントを思い出した。家々の間にかえでを中心とする広葉樹がたくさん植えられている。街路樹もそうである。樹高が10メートルを超えるものが多い。だから、夏場は、緑一色となり、森かと思うほどだ。秋になり落葉が始まると、家々の姿がみられるようになり、ここは都市だと気付かされる。

そして、一戸建てよりは、数戸で構成される建物が多い。しかも築100年を超えるものばかりだ。そして、100年たったので、余計に味わいが出ていると感じるほどだ。

沖縄の団地も当初は100年も続く想定ではなく、30～50年の想定だったろうが、最近の建築は、それ以上耐えるような造りが多い。そうすると、数十年後の景観がどうなるか気になる。

景観でいうと、電線がとても気になる。散策中に景観の写真を撮る際に、電線がとても邪魔をする。

もう一つに気になったのは、団地のなかの小売店（マチヤガー）が激減していることだ。私が住んでいた小波津団地でも、70年代80年代は活気があったが、私たちが引っ越した1990年前後からは、近隣のスーパーの影響を受けて、今や影を薄くしている。南城の年数がたった団地でもそんな感じだ。新しい団地には小売店はない。ある団地では、エステなど癒し系統の店が目立った。時代が移っていく。高齢者向けの介護サービス業務をするところも目立ち始めた。



気になるのは、今後10～20年たった後、居住者が高齢者が多数を占める気配があるところだ。居住者の世代代わりが進むのだろうか。それとも、人口減になるのだろうか。高齢者向けのサービスはうまくいくのだろうか。

かつての団地は、30代ぐらいの家族が住みやすいように作られていたが、今はどうなのだろうか。居住者の加齢に伴う対応ができるような設計がなされていないところで、どのような組み替えが進むのだろうか。また、コミュニティの運営のありようの変化も気になる所だ。

こうした団地が、今後、歴史の味わいをつくれるかどうかに関心をもちたい。その点では、何十年何百年と続いてきた旧来の集落の方が柔軟性が高いのかもしれない。

写真は、大里グリーンタウンの通り

10. 湧稲国 目取真

今は、大里を中心に歩いている。今回は、2回分の報告だ。

まず、八重瀬サンエーの買い物ついでだ。湧稲国集落→川沿いの畑→屋宜原団地というコースで歩く。大里は、玉城と比べると緩やかな丘という感じで、豊かな畑地が連なっている。川沿いを歩くが、川が報得川中流であることは、次の散歩で知る。そこから、団地にでると雰囲気が全く変わる。

下左写真は、湧稲国 下右は、湧稲国周辺の畑風景

別の日は、次のコースを歩く。目取真→グリーンタウン裏手→大城の信号交差点→目取真の畑地→報得川沿



い→目取真入口バス停→

川の看板で報得川（右写真）であることを知る。このあたり、雄樋川、報得川、饒波川が、丘を隔てて並んでいる。河口は、太平洋（港川）、東シナ海（糸満）、東シナ海（那覇）と、全く異なる。

沖縄で、川に関心が向くことは多くないが、こうして歩いていると、関心が高まる。ふだんは道路ばかりに接していて、川に気付くことは少ない。かつては、山・丘や川が、区切りになり通路になったはずで、道もそれらとのかかわりで作られたはずだ。このごろでは、山も川もトンネルや橋などで突っ切る。そして、山・丘も住宅などに開発されている。ということで、山・丘や川が無視されている感じがする。

報得川は、下流域では汚れが激しいことで知られて、浄化の取り組みが進んでいるようだが、いずれの川にしても、もっともとききれいになってほしい。水鳥と魚などがより豊かになってほしいものだ。

歩いていて、目取真集落がなだらかな丘の上に美しくある。他の集落とどこか異なる。アパートなど、中高層の建物がないためだろうか。



中左写真は、目取真集落遠景



中右写真は、大城の信号交差点から大城集落方向を見る



11. 大城グスク 稲福遺跡

南風原食栄森御嶽 平良

今回も2回でまわったところを紹介しよう。大里の尾根にあたる場所を歩いたので、グスクや遺跡尽くしの感じもある。

一つ目のコースは、上稲福→大城→大城交差点→大城グスク→上稲福（稲福遺跡）の順に回る。プリントアウトした細かいグーグル地図をもとに歩くが、一カ所間違えてしまった。

まず大城グスク（前ページ下写真）。10年近く前にも訪問したことがあるが、天候が悪かったので、記憶に残っていない。今回は散策日中で、よかった。グスクの上には広場がある。

グスクを下りて、上稲福に向かう途中、手前に現在の稲福集落、そして、向こうには慶良間まで見える。（右上写真）



上り詰めると、ユインチから大里城址を結ぶ道



路に出て、横断すると、稲福遺跡に出る。しばし前に発掘されて、14世紀ごろに重要な意味をなした広い遺跡だ。今は、いくつかの場所が残されているが、復元されているわけではない。中左写真は、遺跡の中心の稲福殿だ。

このあたりの見晴らしの良いところからは、中城湾が望める。（中右写真）13世紀から14世紀にかけての「戦国」と交易移動の時代を想起させる。

次の散策は、アトールに車を置いて、南風原に向かう。南風原町ではなくて、大里の南風原。南風原の隣が大里城址のある西原だ。知らない人は勘違いしそうだ。

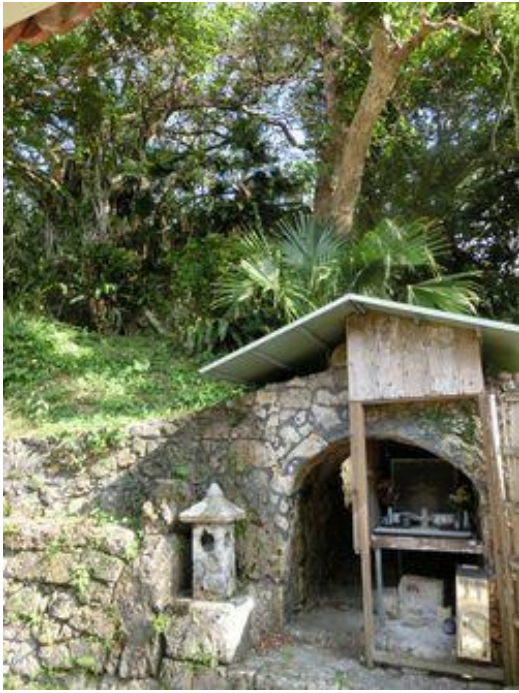
このあたりが饒波川の上流だ。その近くを歩く。途中で、ツミが私から2～3メートル先の木にとまっている。そして、動物愛護センターが美しく見える。上りきると、南風原である。

浅野誠 南城を歩き、景観を楽しむ 2012～2015

左写真は、食栄森御嶽。2年ぐらい前、市が主催のウォーキング大会で立ち寄ったことがある。

そこから、公衆衛生研究所、ハブ研究所など、県の関連施設がいくつもある所に出る。

右上写真はハブ研究所



そこから、降りていくと、平良集落に出る。

このあたりは、どの集落も風情がある。

左写真は、手前に平良集落を見ながら、大里中心部を見る。右方の大きめの建物は児童養護施設の「島添の丘」。

さらに下りていくと、みなみのクリニックの脇に出て、アトール方向へすすむ。

途中で、素敵な手作り家具の工房を見つけ立ち寄る。

2回とも5000～6000歩の長い散策になった。



12. 大里をすべて回り終える 古

堅 嶺井 福原 島袋

12月末から始めて、10回余りの散策で、大里全域の散策を終えた。

今回の紹介は、最後になった大里北部の4つの集落を2回に分けて回ったところだ。

まず古堅。集落をぐるっと一周したが、落ち着いたところのある集落だ。右写真は公民館近くから撮影。





古堅から畑地を歩き、大里北小学校。上左写真は、小学校向かいの嶺井中心部の風景。

そこから、再び畑地を通過して、車を止めた古堅に戻る。

次の散策は、福原の南から出発。ここは、屋取集落なので、散村。立派な家々が並ぶ。起伏に富む丘に畑とともに畜舎が並ぶ。畜舎には番犬が多く、吠え声が少々うるさい。 右上写真

知人の家があるので電話したが、あいにく外出中。



中左写真は、福原を流れる宮平川だが、空港自動車道に近い。このあたり一帯は、国場川上流の宮平川の流域。古堅や嶺井が源流になるようだ。大里は、宮平川・饒波川・報得川の三つの上流域をもつ。

宮平川で、水鳥家族が泳いでいたが、うまく撮影できなかったのは残念。



福原を抜けて県道を横切り嶺井団地に入る。歴史を感じさせる団地だ。中右写真。

団地を抜けると、美しい建物のあおぞら保育園に出会う。広々とした園庭。山羊もいる。左下写真

畑を抜けて、島袋に入る。散策最後の集落となった。右下写真

このあたりの集落は、昔からあった集落で、集落のスキマをぬって県道ができたようで、すべて県道から離れている。そのため、この県道を頻繁に使うが、各集落は初訪問になった。

福原南部に戻り、散策終了。

両日ともに5000歩前後の散策となった。



13. 津嘉山 当添

百名のウフグスク 志喜屋グスク

今回は、大里以外で訪問した番外の紹介だ。

まず、津嘉山サンエーに行った折に、津嘉山周辺を散策した。上写真は製糖工場。厳密には、長堂川を越えるので、豊見城だ。

下左写真は、長堂川。右に南部農林高校の農場が写っている。少し下ると国場川に合流する。津嘉山は、まさにシティになっている。



次は、与那原との境界近くにある佐敷のメディカル病院に行った折にした周辺散策。



右写真は当添漁港。ヒジキで知られている。ここは、与那原町だ。下左



写真は、久茂久岩（クムクジー）の上の拝所。300年前に難破した唐船犠牲者を葬ったところという説明。

1月の記事で紹介した南城市のグスク展で、百名のウフグスクを知ったので、我が家からの長距離散策で見る。下右写真。



浅野誠 南城を歩き、景観を楽しむ 2012～2015

左写真は、1月に案内していただいた志喜屋グスク。月一回のマッサージの折、周辺散策。

大型グスクとまではいえないが、かなり大きなグスクだ。北側から撮影。写真右にはクレソン畑が写っている。



14. 愛地 船越

愛地・船越あたりを2回に分けて歩く。もともとは純農村だったろうが、近年急激にアパートなどが増えているところで、景観がぐんぐん変わってくる。

右写真は、糸数・前川と船越をつなぐ高台から見た船越集落景観。



下左写真は、愛地公民館周辺

このあたりの中心を雄樋川が貫く。

下右写真は、船越と大城の境目あたりで、上流から中流へと移ったあたりだ。

次ページ上左写真は、県道を抜けて浄水場近くだ。コンクリートの3面貼りだが、こんなにきれいな景観もある。

次ページ上右写真は船越大川。美しい。





玉城は、すでに回ったところが多いので、残すは、前川・堀川・親慶原・垣花あたりだ。3月半ばに回りきれんのだろうか。



15. 前川 堀川

今回は、3回かけて回った玉城の南西部だ。

一回目は、愛地の浄水場近くの雄樋川沿いをスタートして、愛地から湧稲国、そして前川の畑を歩き、前川集落に行き、スタート地点に戻るコース。

二回目は、糸数入口から前川方向に曲がってしばらくすると、前川のなかの北の集落があるが、そこをスタートした。畑を通過して、前川集落に入り、再び畑を通り、玉泉洞や清掃工場近くまで行ってから、再び北の集落をめぐるスタート地点に戻るコース。

三回目は、雄樋川にかかる河口から二つ目の橋のたもとからスタート地点。堀川集落を通り、くねる雄樋川下流と支流を越えながら畑を歩き、八重瀬町長毛を通過して、スタート地点へ。そして、雄樋川を少し下って、堀川集落を通り抜け、採石場まで行き、また堀川を通り抜け、戻る。ややこしいが、一応「一筆書き」コースだ。

三回目のコースは、なぜかグーグル地図がとても粗い。何度か地図にはない道を歩く。

上写真は、前川民間防空壕。案内掲示板を見て初めて知り、立ち寄る。家族単位で沢山の壕が掘られている。焦げた色がついたところもある。

下写真は、その隣にある前川樋川





上左写真は、前川集落

上右写真は、前川集落から見下ろす感じで見える玉泉洞駐車場と門あたり

中左写真は、雄樋川の橋から見た堀川集落

中右写真は、雄樋川の河口から二つ目の橋から見た331号線にかかる橋と河口付近、そして港川漁港



下写真は、採石場横から、採石場と海岸を見る。右手は八重瀬町港川集落。





16. 親慶原 喜良原 大城ダム

垣花 玉城完了

親慶原周辺を歩く。浄水場近くに車を置いて、畑を回る。南城市一帯の畑は、1980年代に土地改良が行われた。集落周辺の入り組んだ道とは対照的に、まっすぐな農道ばかりなのが印象的だ。曲がっているのは、昔からの道か、丘周辺だけだ。

上写真 親慶原の畑の中央を水路（写真左側の柵のなか）が走っている。これは、どこの川・海に流れ込むのか、と不思議に思った。というのは、まわりが丘で、流れ出そうな切れ目が見つからないからだ。

すると、親慶原交差点近くに池が見つかり、その脇に水路が入り込んでいるガマ（右写真）を見つけた。なるほどと思った。ここから、交差点下をくぐり、ゴルフ場のなかのミーグワ（新川）を通り、おそらく志喜屋あたりのクレソン畑に出て、太平洋に注ぐようだ。

この豊かな水をめぐって、「復帰前」にゴルフ場になる前のCIA基地と宇志喜屋との水争いがあったことを思い出した。ミーグワは、数年前に「御願」で、ゴルフ場職員に案内してもらって、立ち入ったことがある。なかに入っていくと、CIAが残したのだろうか、水関係施設が放置されていたことも思い出す。



さて、畑地帯を後にして、親慶原集落を通り、丘を散策してスタート地点に戻る。丘は普通の畑になりにくいようで、養蜂や放し飼い方式の鶏小屋が目につく。



喜良原を歩く。ヤードイ集落なので散村だ。ヤードイの多くは散村で、そうでない古くからの集落は固まっている。

新設の南城市学校給食センターに出会う。老人ホームの朝日の家は、どの角度からも目立つ。遠くからも見える。

地図上では、朝日の家の脇道をいけば、親慶原の県道

浅野誠 南城を歩き、景観を楽しむ 2012～2015
まで行けると記してあるが、草が生い茂って、危険を感じたので、引き返した。



左写真は喜良原風景

大里地域で残っていた大城ダム周辺を回る。中左写真は、新設の大里霊園から見た大城ダム。後ろは糸数・喜良原になる。雄樋川の上流部だ。

大城から糸数への県道は、ここに住み始める前の12年ほど前に歩いたことがある。

このあたりは牛豚など畜産農家が活躍してい

る。

以上の3回の散策の後、親慶原東部とつきしろと合わせて、垣花を回る。中右写真の道路は、この箇所だけ



広くて美しい。不思議だ。垣花集落の最後に、ゴルフ場との境目の道を歩く。草むらが多くハブがいそうなので、注意しながら歩く。

玉城は、これまでに回ったところも多く、これですべて回りきった。
そして、いよいよ知念歩きを始めた。

17. つきしろ 志喜屋 山里 具志堅

今回は、3回にわたって歩いたところを報告しよう。いずれも5000～6000歩だ。

1) 県道86号線の垣花交差点からつきしろに入っすぐを農道に入ったところがスタート地点



→親慶原集落→墓地→つきしろの町→つきしろの展望台
→畑地→垣花集落（前回報告）→スタート地点

2) つきしろの東側の農道がスタート地点→南へ畑地を通

り山里→山里トンネルをくぐって、上志喜屋→仲村豆腐工場→リサイクルセンター→つきしろの町の東部→スタート地点

3) 志喜屋漁港→志喜屋集落→山里集落→具志堅集落→海岸→具志堅船溜→志喜屋漁港

いずれも高低差が100メートルを越すので、かなりの運動量がある。

つきしろの町中央に展望台があり、太平洋も中城湾も見える。そこから写したつきしろの町のメインストリート（左上写真）



志喜屋漁港と志喜屋集落（右上写真）

山里集落 志喜屋漁港から写す（中左写真）

具志堅集落 志喜屋漁港から写す（中右写真）

18. 道のいろいろ

南城市一帯散策を始めて、3カ月余りがたち、7割程度終了した。残るは、知念と佐敷のそれぞれ7割ぐらいだ。

今回は、歩きながら発見したこと考えたことを「道のいろいろ」を中心に書く。

歩くところは、大通りをできるだけ避けている。私は呼吸器が弱くて、排気ガスを浴びると途端に調子がおかしくなるからだ。だから、細い道が多くなる。車が通れるとしても、すれ違いには徐行が必要な道だ。集落の中の通りもあるが、農道が多い。

細い道には、未舗装と舗装の双方がある。最近、農道舗装工事が多い。今回も何カ所かで出会った。そのためか、農道も舗装済が圧倒的に多い。

未舗装道路は、車だけでなく人もあまり通らないところが多い。草が生えている。地図上は道があるのだが、草が生い茂って、ここ数日間どころか、半年ぐらいは人も通っていないと思われるものもある。そうしたところで怖さを感じて引き返した所もある。でも少々の草ぐらいなら、かえって気分がいいので、歩いた。そうしたところには、墓地に通じるところが多い。100年以上の歴史がありそうな立派な墓を見つける事もある。

畑地のほとんどは、20～40年ほど前に土地改良済になっている。そこでは、畑が長方形に並べて作られ、道も直線道路だ。通常の道路が、多少なりとも曲がっているのに、対照的だ。農道沿いの畑の1～2割はビニールハウスになっている。ところどころに畜舎もある。ため池というか農業用の貯水池もある。

歩きながら、南城農業観察をしているようなものだ。

道路には、それぞれ歴史がある。私が住んでいる玉城宇中山を含めて知念半島の南側を例にとりて書こう。最新の道路は、ここ20年以内に作られたり、工事中であったりもする個所の多い国道331号線だ。多分制限時速50キロの企画でつくられているだろうから、緩やかなカーブをしつつも、できるだけまっすぐ進むようにつくられている。だから、橋やトンネルがつくられ、盛土、斜面削りなども多い。自然に合わせた道づくりというより、「お道様のお通りです」と自然を変えて進む。

そして、もともとの331号線がある。多分戦後作られた個所が多い道路だろう。戦前に作られ、戦後拡張整備された個所も多いかもしれない。郡道といわれているが、軍道だという人もいいる。バスやトラックが通れるような道路で、60～90年ぐらいの歴史だろうか。

もう一つ、それ以前の道路がある。車のすれ違いの時は徐行するぐらいの幅だ。昔からの集落は、その通り周辺にあり、集落を結ぶ道でもあったようだ。いまでも、生活道路になっているところもあるが、住宅が減ってしまったところもある。今では交通量は少ないが、道路として機能している。多分市道扱いになっているのだろう。

これらに加えて、集落内の住宅間、集落と畑、森・拝所・墓地などを結ぶ道がある。地形に合わせて作られているので、曲がりくねった坂道が多く、ところどころ階段状になり、車が通れないところも多い。

そして海岸に沿う道路もある。道ではないが、海岸そのものも通行できるところが多い。

さらに農道。これが延長距離にすると一番長いかもしれない。

この6種類があるが、私の散策は、自動車交通量が少ないところを使うのがほとんどだ。



写真は、志喜屋集落北側の道路から分け入って入り、仲村豆腐店近くに抜け出る山道。

19. 知念

暑い日だったが、久しぶりに長距離散策。宇知念全体を海岸と丘の双方をあわせてまわった。さすが旧知念の中心集落だけのことあって、広大だ。

知念グスクの駐車場に止めて、東に向かい、国道331を越えて、なお東に向かい、吉富の近くでUターンする。写真は、そこからニライカナイ橋方向を撮影。左端が県営知念団地。その右側に、美しい自然庭園のシャグリラの森が見える。



Uターンして、海岸沿いの畑地を歩く。途中、集落方向へと折れて、旧坂を登る。デザインがよい家が並ぶ。



331につきあたって、再び折れて、公民館あたりを歩き、再び丘を登り、集落内を歩く。

石獅子に出会う。制作年は分からないが、相当に昔だ。

そこを過ぎて、おばあさんから「どこへ行くの」と声をかけられる。「南城市を全部歩いているが、今日は知念。知念は大きいですね」などと会話。お褒めの言葉をたくさん頂戴した。

スタート地点につく途中で、知念の全景を撮影。背景は、久高島などの太平洋だ。(中右写真)



20. 久手堅 吉富 知念岬

知念岬の体育館横の駐車場に車を置く。岬まで行き、そこから降りて海岸道路につながる階段道を下りていく。

写真は、階段道を下りる前に、志喜屋漁港・アドキ島までの海岸線を写したもの。左手は久手堅船溜。階段道はその近くまで続く。

船溜から吉富までの畑道を歩く。途中で、久高島までの送電施設に出会う。そして鮮やかなデザインのペンションを見つける。

中写真は吉富集落。こぢんまりとして落ち着きを感じる。道は331号線に突き当たる。その脇にあさひ保育園。331号線をこえたところで、保育園の散歩と出会う。卓球仲間の保育士の方とばったりと出会う。市役所の知念支所を越えると、知念幼稚園。そして久手堅集落。

集落をこえたあたりに、「大アカギ」の表示。かなり太い。(左下写真)

その道をさらに進むと、携帯の通信塔がある。そこから撮影した海と久高島(右下写真)

道は、斉場御嶽の施設へとつながる。

斉場御嶽から、331号線までの道路沿いにはカフェが増えている。白百合の老人施設も立派になっている。知人がやっている工芸品制作販売所も美しく配置されている。



331号線から、脇道を下りて、海岸まで行き、再び階段道を上って、知念岬公園へ。

5400歩だが、景観も雰囲気もとてもいい。斉場御嶽への道だけは、観光客が多いが、他は観光客ゼロ。いい散歩道だ。



21. 久手堅か ら安座間へ 運玉森



久手堅の奥にある知
念中学校近くに車を置いて、北方向へスタート。

久手堅から安座間への丘を越えるあたりから眺望が開ける。近くで畑仕事をしている方に聞くと、昔は学童道で、幅は1メートルもないほどだったが、サトウキビ運搬のため、拡張されたということだ。しかし、出会う車は、1～2台。途中には、ショートカットの階段道もある。

上下写真は、そのあたりからとったもので、手前が安座間集落。左手に知名集落。突き出たところが知名岬。



遠くに勝連半島が見える。

突き当たって左に行くと、安座間集落・国道331だ。

集落の中を歩いた後、海岸線道路を歩き、安座間漁港へ（中左写真）。その隣は久高航路の港

さらに進むと、あざまサンサンビーチ

そこから国道に上り、北方向にしばし歩いた後、丘を昇る旧道に進む。途中にまんまるカフェがある。中右写真は、その道。後ろに見えるのは、すくなむいと守礼ゴルフコース

途中で、安座間グスクに出会う。導入路は雨上がりの草道で、ハブなどの危険もあるので今回は上らなかった（左写真）。予習して日を改めて上ろうと思う。

浅野誠 南城を歩き、景観を楽しむ 2012～2015

さらに進むと、再び久手堅へとつながる道にでる。

途中で、西大学院の建物が見える。左写真。

そして、スタート地点に戻る。

5500歩のコースだが、曇り空であるにもかかわらず、景観が素晴らしくいい。しかし、歩いている人には全く会わない。おすすめコースになりそうだ。



自動車の定期点検に与那原にでかけた。点検中に運玉森の南側の大見武、南風原の与那覇・宮城あたりを散策。写真は運玉森。北側は、西原に住んでいたころ、よく歩いたが、南側は初体験だ。

このあたりも散策にはいいところだ。



22. 知名 津波古

車を知名岬の付け根の駐車場に置いて、スタート。

ここから安座間サンサンビーチまで、海岸道路が散歩道としても整備されている。左写真。

久高島・津堅島を見ながら散策できる。スタート地点から南下し、途中で知名集落・331号線方向へと曲がる。





このあたりから、スクナムイが美しく見える。いつもは反対の東側から見ている。(上の左右の写真)

国道を突っ切ると、守礼カントリークラブへの道に入る。途中で集落方向に折れる。集落の上の中腹の道路を北に向かって歩くつもりだったが、道を二度も間違える。門中墓が一杯の道を歩いてしまった。前日の清明祭で、きれいな道になっている。普段は人が通らない道だろう。これらの道は行き止まりになっているので、往復してしまった。

このあたりは、スクナムイの中腹だ。守礼カントリークラブのコースが美しく見渡せる(右写真)。

丘から降りて、スタート地点に近づく。知名岬の小高い丘にも、お墓が集中している。



そこから丘越えをすると、テダ御川に行きつくと、地図にはあるが、途中から1メートルもの高さの草で覆われているので引返す。海岸線から向かう。



テダ御川は、いうまでもなく、東御廻りの重要地点。しかし、今は水が湧き出る気配さえなく、岩石が散乱していて、寂しい限りだ。すぐ隣にはエビ養殖場が迫っている。(左写真)

出発前も、出発後も雨で、歩いているときだけ、雨なしでラッキーだった。

定期的な病院通いのついでに、津波古周辺を回る。



まず馬天港。有名だから説明は略そう。40年前、初めて久高に行ったときは、ここからポンポン船にのっていった。(上左写真)

港から南向けに進み、途中で西向きに方向を変え、馬天小学校へ。そして、丘を昇り、珊瑚者スコーレの「やまがんまり」の横・上を歩く。そのあたりから見る馬天小学校はきれいだ。後ろには、ユインチホテルから大里城址あたりの丘が美しく見える。(上右写真)

丘を下りて、県道を歩いていくと、児童公園がある。上には拝所がある。ここは、43年前、奥武山自動車学校の仮免許練習で来たことを思い出した。

23. 海野 久原 仲伊保

今回は、2回の散策の紹介。これで、知念は終了し、佐敷巡りがスタートした。佐敷はすでに何か所かまわっているの、数回で完了しそう。多分、ゴールデンウィーク中には南城の全地域めぐり完了予定。

海野漁港に車を置く→板馬のクルマエビ養殖場→スクナムイの北側の海野の丘→海野漁港

左下写真は、海野漁港 背景はスクナムイ

右下写真は、板馬のクルマエビ養殖場





海野の丘、スクナムイの北側の道を歩いていくと、倒木が道をふさぐ（上左写真）。すでに何か月もたつていそうな感じだ。車が通れる道路だが、通行量ゼロ状態が続いているのだろう。

丘の道端に咲く自生のクチナシの花が満開状態（上右写真）



24日

仲伊保の港に車を置く→久原海岸→久原の丘の道→仲伊保の港
仲伊保の港（中右写真）



仲伊保の東側の海岸近くで、1971年11月、私が沖縄第一日目を過ごした恵美子の先輩宅があったところ。（中左写真）

今は、当時を示すものも目印もない。

左は、久原海岸の美しく咲くモンパノキ

次ページ上左は、久原集落を丘側から見る
次ページ上右は、仲伊保集落を丘側から見る。背景は大里の丘



24. 富祖崎 仲伊保団地 屋比久

伊原 手登根 外間

いつもの卓球練習場の富祖崎運動公園に駐車→仲伊保→仲伊保団地→屋比久→屋比久の森→戻る。

富祖崎を北に向かい海岸に出る。右写真はマリーナ。現在は閉鎖中のようだ。



仲伊保集落を東に進み、仲伊保団地（左下写真）近くで331号線を横断。

屋比久集落の北沿いにスクナムイ方向へとすすむ。

すると、右下写真にある案内板を見つける。案内板の指示通りに進む。整備されていて古くなってはいない石段などがある。だが、最近人が通った気配がない。草が生えっぱなし。





佐敷と干潟を見晴らす景観がいいところもある。上左写真の手前が屋比久集落。

悪道に苦勞しながら、かなりの距離を歩いて、ほぼ一周して、いよいよスタート地点と思った所で、右上写

真のように丈の高い草に阻まれる。これから引返すには、遠すぎる。大胆にも突っ切ることにする。1分ぐらい悪戦苦闘すると、草の

ない道に出て、しばらくするとスタート地点に戻る。もう50回近くした南城散歩で一番ドキドキものだった。屋比久集落を通過して、富祖崎まで戻る。



次の散策には、恵美子も同行。同じく富祖崎に駐車。331号線に向かい、屋比久を進む。



集落の公園前にあるシーサーが素晴らしい(中左写真)。公園を歩き、土帝君などを見ながら、伊原の方向へ。

中右写真は、伊原地域。屋比久も伊原も広々とした立派な家が多い。写真後ろは、知念半島の丘。

伊原をぐるっと回って、手登根に近づいたところに、蓮池を発見。紫・白・赤の蓮が美しく咲いている。(左写真)

池近くのカフェ・テダムーンで食事。2回目

の訪問。美味しい。

その後、手登根、屋比久、外間、富祖崎を歩く。

右写真は外間集落

今回の歩数は7400歩。これまでの南城散策で最多。



25. 手登根 佐敷 兼久 新里

今回は、佐敷中央部を歩いた2回について報告する。

次回は、一連の南城市全域散策の最後の報告になりそうだ。

5月4日 佐敷上グスクに駐車。上グスクの裏手の丘を手登根に向けて歩く。

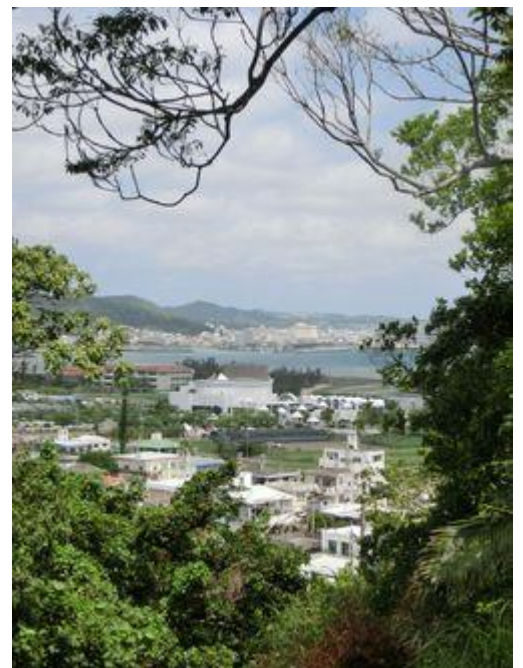
途中、スクナムイ方向の写真をとる(左写真)。屋比久・外間・手登根の各集落が写っている。

途中、土帝君に出会う(左下写真)。このほかに、屋比久でも新里でも出会った。佐敷は多いのだろう。



右写真には、宇佐敷とシュガーホールが美しく写っている。

さらに歩くと、苗代大親の住宅跡にも出会う。このあた



りは史跡が多い。

手登根まで行って、国道より山寄りの字佐敷の集落への道路を歩く。途中まで、立派な二車線道路だ。

佐敷尋常小学校跡を示す杭が畑に置かれていたのにも、出会う。佐敷町役場跡の記念碑にも出会う。

佐敷小学校を経て、スタート地点に戻る。

5400歩



5月5日 佐敷JAに駐車

兼久の畑地帯から、丘方向へと登っていく。急坂だ。門中墓がたくさんある。

登っていくと、つきしろとユインチを結ぶ自転車道が近くなるが、そこまで行ける道はない。丘の道路を新里に向かって歩く。



途中で、佐敷干潟とスクナムイ方向の写真をとる（右上写真）。

豚さんに出会う。アグーか？（中右写真）

新里・新開・津波古、そして中城湾を撮影（中左写真）。



新里の丘側の集落を歩く。旧知の風の里、仁王窯がある。ここにも土帝君があった。

場天御嶽の傍を通り、畑地をとおって、兼久集落へ。

兼久海岸で、佐敷干潟を撮影

スタート地点に戻る。6600歩

26. 小谷 新里 新開 南城全 域散策完了

5月6日、ついに南城市全域の散策を完了した。昨年12月から約50回の散策と、我が家周辺のようにすでに散策済の場所を合わせると、全域をまわったことになる。

1年がかりのつもりだったが、半年で完了。とても楽しかったことが、予定より早くできた理由だろう。



全体を振り返ってのコメントは次回以降にして、まずは最後のコースについて書こう。

金秀スーパーに車を止める。津波古の畑地帯を突っ切って、東陽バス営業所近くから丘登り。

途中で、小谷集落を撮影(右上写真)

丘の道をかなり登ると、大里城址に近づく。曲がって、小谷集落方向に歩く。小谷園正面に突き当たり、その横

で、またもや土帝君に出会う。小谷集落内は、昨年、「小谷マーイ」地図をもとに歩いたので、今回は、その外周を歩いて、県道へいき、新里集落内へと進む。

途中の小谷の丘から、新里をはじめとする佐敷各集落とスクナムイを撮影(中左写真)。夕方だったので、夕陽に照らされて美しい。

新里から新開に向かい、老人福祉センター前の、ヒルギ林を撮影。(下右写真)





海岸沿いの散策道を歩く。途中に展望台が作られている。そこから、中城湾を撮影。上左は、東北東方向、右は西北西方向

スタート地点に戻り、買い物をして帰宅。

7700歩 長い道のりだった。連休は何度も歩いたので、少々疲れがたまり、腰がガクガクとする。

27. 南城散策の振り返り1 地図

半年間の南城散策を振り返って、いくつか綴ろう。まず地図だ。

初訪問のところに絞ったので、地図は必携だ。

今回の一周では、グーグルマップを愛用した。私が手に入れることのできる地図のなかで、一番詳しく最新のものを示していると思ったからだ。それに、歩きたいところだけに絞って、プリントアウトすれば、2～3枚の持参で間に合う。きちんとした地図だとかさばり、広げてみるのにも手間取る。

出かける前に、地図を見て、予定コースを鉛筆で書きこむ。慣れてくると、5000～6000歩予定の散策をかなりきちんと予測できる。

いくつかの体験を書こう。

1) 地図では、十字路で曲がる予定なのに、交差する道路が見つからない。それもそのはずだ。交差する道路は、トンネルになっている。少し回り道をして、トンネルを通過して、予定通りに道を歩んだ。つきしろで。

2) 地図には、きちんと道になっているが、高さ1メートル近くの草で覆われている。進むのを断念したところ(喜良原)、突っ切ったところ(屋比久)。夕方散策で湿気が多い時は、ハブが出そうで、スニーカーでは安全上の問題があるので、断念する。安座間グスクもそうだった。

3) 海岸は、道路としての地図にはないにしても、通行可能なところが多い。そんなところでは、海岸を歩く。気分がいいからだ。

浅野誠 南城を歩き、景観を楽しむ 2012～2015



だけのところだということがわかる。

4) 時々、地図にはない道もを見つける。人通りがほとんどないので、道に認定されていないのだろうか。大きな墓に通じる道もその例だ。間違えて入り込んで、引返すこともあった。

5) 地図は99%正確だろう。隣の道へとつながっているだろうと思うが、よく見ると、その直前で終わり。そうしたところは、崖になっているのだ。こんなところがかかり多い。地図だけを頼りにしないで、周りの景観・地形を見ながら歩くことも大切だろう。

6) 地図に階段が描いてあると、これは人間が歩く

7) 遊歩道は、地図にないことがある。その場に着いて、遊歩道があることを発見すると、そこを歩く。すべての遊歩道は、作られた時は、きちんと整備されていただろう。しかし、人通りが少ないところは、放置されたままで、1年に通る人が数人ぐらいと思われるところもある。遊歩道があるといって、安心すると、かえって怖いところも多い。遊歩道などには、設置予算はつくが、維持費の予算がつかないのだろう。

ボランティア作業が期待されるのだろうが、そこまでは大変だ。自転車道があるが、尚巴志マラソンのコースになる所は、きちんとしているが、草ぼうぼうで、アスファルトがめくれており、自転車通行不能のところもかなりある。

8) 地図には車が通れる道路になっているが、倒れた木で通行不能状態が、何か月も続いていそうな道もある。私は歩いて通ったが、少々不安もあった。

写真は、丈の高い草で覆われた遊歩道

28. 南城散策の振り返り2 地域・集落の境 景観 畑 出会い

全集落を歩いたわけだが、合併前の旧4町村の境界を感じなかった。無論標識があるわけではない。それでも、丘陵や川などの自然がつくる境界があってもよさそうだが、それもないところがほとんどだ。つきしろなどは、全く旧町村の影がないが、知念と佐敷の境も不明だ。

集落の境界の方があるのかもしれないが、それも薄くなっている。集落から離れたところの住宅地が増えているためだろうか。長い歴史のなかでつくられたシマの影が薄くなってきて、シマの垣根も消えつつあるのだろう。

集落のなかにある、アパート・マンションなどの集合住宅や



浅野誠 南城を歩き、景観を楽しむ 2012～2015

団地の有無・多少が、景観を大きく変える。それらが無いところは、建物がコンクリートの一軒家が変わっただけで、集落の「たたずまい」の変化は少ないだろう。落ち着きのある生活を楽しむにはよいだろう。それがあるところは、多様性に富み、活気を感じる。無論、雑然としていると感じる人も多だろう。

景観条例ができるなど、景観への関心は高まっているだろうが、南城らしい景観、あるいはその地域らしい景観ということへの一層の関心の高まりを期待したい。

通信会社の塔の乱立は景観を壊しているといっていだろう。美しい景観のなかにポツンと目立つ塔は、目障りだ。高压電線の塔も目障りではあるが、通信塔に比べれば、我慢できる程度は低い。景観上、電線の地下化がいられているが、まずはこうした塔の存在への対応に関心を持ちたい。

南城は、多様な地形を持っている点で注目される。佐敷の平野と山、丘陵と山に平地が混じった大里、玉城。

丘陵と山が中心の知念。それらと海とが織りなすコントラストがいい。

畑にも、地域特性がある。ビニールハウスの多寡、畜舎の多寡、サトウキビ畑の比率などが、それをつくる。クレソン畑などは、ユニークさを作り出す。

畑地での灌漑用池、用水路・川の存在が、地域特性をつくる。赤瓦の浄水施設が散在しているが、かなりの維持費が必要とのことだから、今後、難題になる可能性はある。

不法投棄物が、景観と歩く人の気分をこわす。あき缶などのゴミの放棄は、それほど多くないが、放置すると



すぐに増えそうに感じる。

草木の管理が大きな課題だろう。地域の共同作業、あるいは墓地周辺では親族組織などが対応しているが、十分とはいえない。あわせて倒木が道路を防ぐ状態の改善があれば、南城のウォーキング向け道の距離は飛躍的に増えるだろう。

歩いていると、突然美しい自然に出会うことが多い。ミサゴや水鳥などの鳥、アサギマダラなどの蝶、クチナシの花など……

今回の歩きは、通常の散歩コースにはなっていないところが多かったせいか、珍しがられて声をかけられることが何度もあった。女性高齢者からが多い。「マーカイガ」「どこからきたか」とかから始まって、集落の特徴の話とか、だ。「南城一周しているのです」というと、「エライネー」と言われることが多い。

土日ともなると、週末農業の人との出会いもある。私の方から声をかけることも多い。会話をすると、なぜか、気持ちが軽やかになる。

でも、畜舎にいる犬に吠えられると、少々怖い時もある。うるさいだけのことが多いが。

面白い経験と発見が多い散策だ。お勧めしたい。



グスクロード タマグスク 玉城青少年の家 グスクロード公園 2014年11月7日

この季節になると、グスクロードに沿った散策が心地よい。風が吹き、景観が素晴らしい。東から西へと、主なものを紹介しよう。

垣花グスク・ミントングスク → 玉城青少年の家 → タマグスク → グスクロード公園 → 消防本部 → 糸数グスク 道沿いに、元CIA基地だったゴルフコースもある。

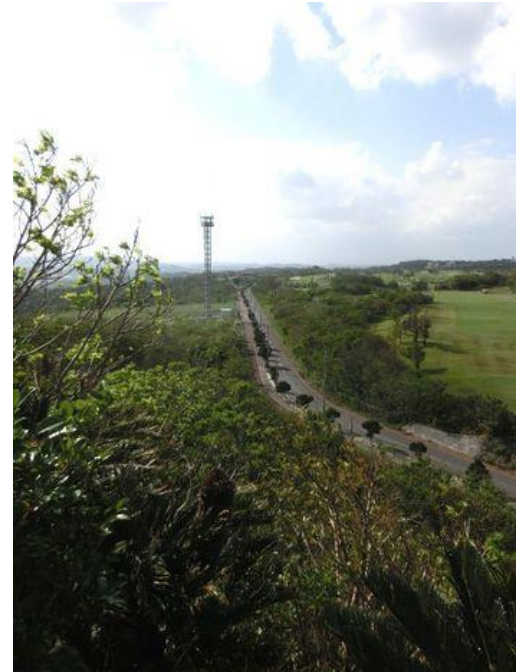
全部歩くとなると、片道だけで数キロになるので、「小分け」して歩けばいい。グスクロードまでは、百名・仲村渠から、中山から、富里から、玉城小中学校から、糸数からと、麓から歩くのがいいが、無理なときは、車でグスクロード公園などまで行って駐車して、歩けばいい。グスクロードへは、百名・仲村渠から、玉城小中学校から、糸数から道路が通じている。

中左の写真は、タマグスクから東方向を撮ったもの。右は同じく西方向を撮ったもの。
左下の写真は、タマグスク。タマグスクの丸い門には、冬至の時、太陽が入って沈む。



(下右写真)

かつて玉城少年自然の家といていたものが、今は玉城青少年の家となっている。



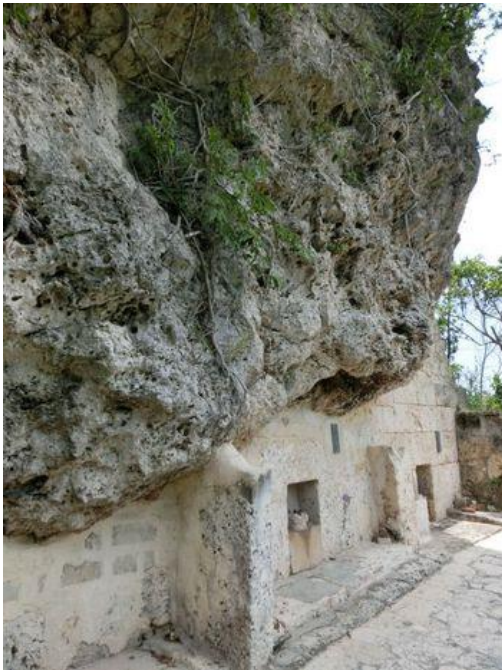
浅野誠 南城を歩き、景観を楽しむ 2012～2015
左写真のグスクロード公園の大木はすごい



尚布里、尚布里子、尚泰久の墓

2014年4月30日

先日のクラフトフェアへは、散策を兼ねて出かけたが、帰り道、第一尚王朝関係の墓めぐりをした。南城市グランド傍にある百十踏揚（ももとふみあがり）の墓は、すでになんとか訪れ、このブログでも紹介した。



尚泰久の墓は、何度も訪問したが、今回は久しぶりの訪問となった。（左写真）

数年前、上の巨岩が崩れかかったので、修復工事が行われたところだ。

尚布里、尚布里子の墓は、初訪問だ。（下左右写真）

このあたりは、第一尚王朝に関係するところが多い。第二尚王朝時代、彼らの墓にも不遇な状況にあったものが多そうだ。尚泰久の墓が現在地におちついたのは、明治41年ごろのことだと、「當山誌」は書き記している。

尚巴志の墓は、読谷にあるが、出身地の佐敷に戻したいと考える人もいる。

玉城王関連も含めて、さらにはヤハラヅカサや濱川御嶽も含めて、このあたりには史跡が多い。ただ、伝説の世界も含んでいて、どこからが史実でどこからが伝説かの分別はなかなか難しい。



うん十年ぶりの旧友たちの訪問

久高訪問

2014年3月15日

12日から三日間、旧友たちと娘夫婦が我が家に滞在した。いろいろと語り合い、近くをまわった。久高島も訪問。

大きな木が、そのまま拝所になっている。(右写真)



知り合いから車を借りて、久高島の海岸をまわる。何度来ても、美しさに感動。久々に、北端のカペール岬に来る。(中左写真)



毎月、マッサージをしてもらっている具志堅さんの奥さまは久高出身だが、生まれ育った島で民宿「ちばい小」を開いておられる。訪問する。蘭など、美しい花がいっぱいだ。(下右写真)

夜は、旧友とたくさん語る。久々に酔うほどに飲む。中学高校時代を思い出すのは、何年ぶりか。私はすっかり忘れているのに、かれはよく覚えている。その後の人生、これからの人生も含めて、話題はあちこちする。私たちは、かなりドラマティックな青春時代を送ったようだ。

学校時代を過ごした所から遠く離れており、近くに当時の友が全くいないこともあって、同窓会などへの出席率は限りなくゼロに近い私なので、こんな機会は滅多にない。しかし、退職世代なので、今回のように我が家を訪問する旧友が増えるかもしれない。

学校時代を過ごした所から遠く離れており、近くに当時の友が全くいないこともあって、同窓会などへの出席率は限りなくゼロに近い私なので、こんな機会は滅多にない。しかし、退職世代なので、今回のように我が家を訪問する旧友が増えるかもしれない。



中山・富里・奥武・玉城・百名・新原・グスクロード一帯の散策路

2014年2月26日

23日に南城市で、自転車とウォーキングの大会があったが、近年このあたりでも歩く人が増えている。私も一日一万歩ぐらいせつせと歩いている。

気温がそれほど高くなく、汗をあまりかかない10月後半から5月前半にかけては、坂道だらけのグスクロード方面の丘も歩く。今年は、とくにいろいろな散歩コースに挑戦してみた。

往復で、およそ3000～5000メートルのコースだ。一覧にしてみた。

1) 海岸

基本ルート

我が家——600m——中山海岸——700m——字玉城海岸——1000m——我が家

このルートに以下のオプションコースを加えて、3000～5000mとなる。

- 1) 干潮時イノー往復 500～1500m
- 2) 玉城海岸——700m——新原ビーチ——1000m——（百名ビーチ）ヤハラヅカサ
- 3) 我が家——331号經由2800m——ヤハラヅカサ
- 4) 中山海岸——800m——奥武橋——800m——奥武島龍宮

2) 丘側

ルートA

我が家——700m——井上犬訓練場——旧道1000m——富里——800m——グスクロード公園——400m——ドコモ塔——1500m——我が家

ルートB

我が家——800m——331号字玉城旧道入り口——800m——玉城青少年の家グランド——800m——タマガスク横——500m——ドコモ塔——1600m——我が家

ルートC

我が家——700m——井上犬訓練場——旧道1000m——富里——400m——南城市役所玉城庁舎・中央公民館

往復で4000mあまり このルートで国道331号線を使うルートにすると、200メートルほど短くなる。

ルートD

我が家——700m——中山海岸——中山農道1700m——国道331バイパス——331号線歩道1400m——我が家

中山の西区域一周コースで、4000m足らず。

ルートE

我が家——331号線、またはその旧道——百名中央部（公民館や小学校あたり）

片道で2000m余り 旧道を使うと、やや長くなる。



写真左上は、百名と富里を結ぶ旧道の中山配水池あたりで、左上に上っていくと、グスクロードのドコモ通信塔あたりに出る。

写真右上は、同じ旧道の玉城あたり。右に降りると331号線。それをのぼっていくと、信号機のある百名入口交差点。



ヤハラヅカサ往復8000歩散策

2014年2月6～7日

しばしば訪れるヤハラヅカサ(左写真)を通る長距離散策だ。8000歩で、私の歩幅を70センチとすると、5.6キロのコースだ。

我が家→国道331号線→百名→Cafe シーサイド横・玉城第二浄水場・崖墓横→濱川御嶽・潮花御嶽→ヤハラヅカサ→百名ビーチ→新原ビーチ→百名伽藍横・浜辺の茶屋横→サチバル→字玉城→我が家

ヤハラヅカサあたりまでが4000歩で、ほぼ中間地点だ。

夕方5時15分ごろスタートで、6時過ぎに帰宅。5時まで雨だったが、急に晴れて素晴らしい夕陽に出会えた散策だった。

中左写真

夕陽に照らされるヤハラヅカサ。右方が、その石標。左手奥に久高島が見える。

直前まで雨だったので、会う人はほとんどいない。観光のカップルが一組だけ。雨上がりで美しくなった海辺。静穏の雰囲気。

我が家近くの国道331号線を東に上っていく。坂上が百名入り口信号。百名獅子、大型マンションなどがある。そこを下っていくと、信号。右手に行くと、次ページ上左写真の所に来る。ここまでが我が家から25



00歩。写真正面がCafeシーサイドで、右の道にいくと、受水走水散策路入り口をとおって、豪邸へ。左の道を通っていくと濱川御嶽に行く。

この道は、近年舗装されて歩きやすい。以前は、草ぼうぼうで、今にもハブに出会うのではないかと心配する道。おどろおどろしささえ感じた時も。まず左手に玉城第二浄水場の建物を見る。それを越えると、左手の崖に墓が並ぶ(右上写真)。直角の傾斜の崖で、その上に百名集落がある。このあたりに貝塚があるはず



だが、私には正確にはわからない。このあたりは、2000年以上の歴史を感じさせる。

しばらく行くと、藪薩御嶽の真下に出る。「知る人ぞ知る」の御嶽。カフェヤブサチの横から入っていく。その御嶽を下から眺める。

しばし行くと、急に見晴らしがきいて、久高が見える。そこのコンクリート建物には、いろいろと歴史がある。35年ほど前、私の大学授業で合宿をしたことがある。

少し行くと、濱川御嶽・潮花御嶽の双方が見えるところに着く。ここへは、何回来たことか。このブログでも何度となく書いたので、今回は説明を省く。(中左写真)

中左写真の左手に降りていくと、ヤハラヅカサの海岸に出る。降りる石段にたって撮った写真(中右写真)。新しい世界が開けてくる印象。

右写真 百名ビーチ 西方を見る





上左写真 百名ビーチから、西の丘あたりを見る。新原の上の集落があるところで、写っているのは豪邸。

上右写真 百名ビーチに流れ着いたヤシの実。東方向を写す



左写真

新原ビーチの西端の巨岩の間で、私たちはよく泳いだ。ここ10年というだけでなく、30, 40年前も家族連れで年1回は、ここで泳いだ。

散策は、百名ビーチから新原ビーチを通り、百名伽藍・浜辺の茶屋の横を通って進む。このあたりは週に一回は散策する。今回は見事な夕陽に出会う。

左下写真

右下写真 私がこよなく愛する「鳥のくちばし岩（私の勝手な命名）」が左に見える。いまごろの

夕陽は、糸満観光農園あたりに沈む。その左側が摩文仁の丘だ。



浅野誠 南城を歩き、景観を楽しむ 2012～2015

さちばるをとおって、字玉城の浄水場に近くなると、我が中山集落の家々が見え始める。正面手前の森の中に我が家がある。ここから1100歩で、我が家に帰りつく。



佐敷干潟風景

2014年2月4日

夕方、佐敷海岸を歩く。シュガーホール裏手から始まって、富祖崎方向へ少しと、新開入り口までの往復。合計4500歩、距離にして3キロ余り。

佐敷干潟、そして、中城湾、知念半島などがよく見える。いつも歩く玉城海岸とは全く異なる風景。

今回は護岸の上を歩いたが、いつか靴服装の準備をして海



岸や干潟にまで降りてみたいと思う。だが、ゴミの散乱が激しいのが問題。干潟なので、ごみ取りが難しいのか、中城湾のゴミが多いのか、玉城周辺のゴミも多いと思っていたが、その数倍ある。

景色だけでなく、雲混じりの空と丘と海とのコントラストの強い景観が良かった。

中左写真 富祖崎方向へ歩いたところにある水門近くから写す。新里の丘が美しく見える。

中右写真 シュガーホール裏から、シュガーホールを写す。いつも見ているホールとは逆の角度だ。

右写真 干潟全景 佐敷中学校裏手から写す





上左写真 佐敷中裏手のひるぎ林



上右写真 兼久海岸から、景観の全景を写す。いつも卓球をしている佐敷スポレクセンターも見える。

右写真 新開入り口の橋の下には、ひるぎ林ができています。



玉城青少年の家・グスクロード・タマグスクを通る新散策道

2014年1月31日

歩いたことはあるが、通して歩いたことがないので、一度通して歩いてみる。



我が家（中山集落）→国道331号線→字玉城の上の集落入り口→百名カチャ原への道→青少年の家ウォークラリーの道入り口→左下写真→青少年の家のグランド横→グスクロード→タマグスク横→ドコモの通信塔脇の道を下りる 次ページ上左写真→旧道の玉城と中山の境目付近で配水場横→旧道を西へ→門中墓横を降りる→国道331号線→我が家

全部で、5000歩、3.5キロほどだ。しかし、高低差100メートル近くで、急坂が多いので、実感



的には6000～7000歩だろう。

距離を伸ばそうと思えば、いくつもコース設定が可能だ。

森の中を歩くこともある。海が見える絶景を何カ所かある。右上写真

グスクロードを散策する人は結構いる。犬の散歩の人もある。ある犬がハイビスカスの花を食べているのを見た。好物だそうだ。驚いた。

2013南城市ウォーキング大会 in 大里

2013年12月15日

15日朝8時から開かれた。「広報なんじょう」で案内を見つけ参加。

大里内原公園集合(右下写真は開会式風景)→急坂を上る(左下写真)→大里グスク→真境名→南風原(食栄森御嶽)→終わりの5キロコースに参加。団体行動というより、コースを各自のペースで気ままに歩くと感じて感じ。これがなかなかいい。

50～100人ぐらいだろう。知っている人が何人かいた。

私たちは平均年齢ぐらいだろうか。もう少し若い人が多いだろうか。女性より男性の





浅野誠 南城を歩き、景観を楽しむ 2012～2015
方が多い感じがする。若い父子もいた。いろいろな人とおし
ゃべりしながら歩くのが楽しい。コースでサポートしている
若い琉球大学グループの1人が、中山の隣の字玉城出身だっ
た。共通の知り合いがたくさんいた。

最初の大理グスクに登る坂が、なかなかのところだ。急坂
の最後は、巨岩の間をくぐりぬける（左上写真）。

また来たくなった。字西原から尾根筋をユインチホテルの
方向へ向かう道は、以前自転車できたことがある。途中で折
れて真境名集落に入る。

私の散策路 字玉城→山の茶屋→天空の茶屋 →字百名（新原）→国道331号線

2013年3月28日

26日、我が家から東側にある玉城集落を通るルートを歩
いた。ほぼ7000歩で起伏の激しいコースだが、木々の間
を通ることが多いコースだ。



我が家から東へ1000歩のところの集落が玉城だ。家々のなかを
通って、丘の三叉路（中写真）にでる。国道331から来る道路に
ぶつかり、そこを南方向に行くと、ここ10年ぐらいで建った家
々が並ぶ。様子が変わったが、すべておしゃれな家で評判だ。
ペンションもある。「海坐」は知人がやっている。

突きあたりが「山の茶屋」の裏口（右下写真）だ。



そこから上って行くと、「天空の茶屋」への散策路にな
る。できて新しいが、ぐんぐん整備され、かつ木々が成長
して、雰囲気が変わっていく。オーナーの希望は、できる
だけ自然に近づけることだから、10年たてば、亜熱帯林
散策コースにかわるだろう。

浅野誠 南城を歩き、景観を楽しむ 2012～2015



結構、急坂だ。坂の途中にはいろいろな花や自然の草木で一杯だ。左写真はトウワタの花だ。この種をもらって、我が家に植えたら、大変素敵な状態になっている。



「天空の茶屋」についたら、御主人がいらして、「お茶会」となる。この周辺の夢をいろいろと聞く。植物についての情報交換もする。

ここからすぐ近くに、社会福祉センターがある。そのそばを通過して、国道331号線に出て、百名の旧国道への道との信号三叉路の所に出る。ここから我が家までは、1500歩ほどだ。右上写真は、331号線だ。クルチの街路樹が大きくなってきている。

このコースの夏場は、少々暑いですが、現在はほどよい感じだ。海岸でなく、このように山や丘方向への散策を時々する。

無料電動サイクルで、ユインチホテルと大里城址とを往復する 2013年1月14日

南城の情報サイトの「南城スタイル」で、「南城市をレンタサイクルで周遊」という記事を見つけ、早速問い合わせる。

12日「OK」ということで、貸出場所の一つ、ユインチホテル前に行く。簡単な手続き。

このあたりには、自転車道がある。東方向のつきしろ方面には何回も歩いたが、西方向へは行ったことがないので、今回はその方向だ。



電動サイクル初体験で、操作に少々まどろっこしいこともあったが、慣れる。急坂もとても楽に上って行く。



道の右側は中城湾だ。景観を楽しみながら進む。右写真

途中工事中だったが、そのまま進む。海を見下ろす見晴らしがいいところのためか、立派な墓が並ぶ。大規模な鶏飼育場もある。ともかくまっすぐ進むと、20分ほどで大里城址に到着。前回は自動車で訪問した。そこで、しばし散策した後、戻る。1時間余りのサイクリングだった。その後は、定番の温泉。



3月初めまで、無料体験があり、その後、有料貸し出しということになる。いくらなら、利用するかといったアンケートもあった。アンケートの選択肢の中間価格は1時間300円だが、それぐらいなら、とても安いものだと思う。

なかなかいい企画だ。

春の奥武島風景 2012年3月26日～31日

1. アーサ

一週間前、我が家から奥武島一周の散策をした。このコースは、月に一回ぐらいする。1時間余りで、8000歩ぐらいか。

アーサの色が鮮やかになる季節だが、例年より遅い。今年の寒さのためか。

3月24日が旧3月3日浜下りだったが、とても寒く人出は少なかった。それに対して写真を撮った日は、温かく、いい天気だった。

中右写真は、干潮時に撮影したが、自然のアーサ。 向こう岸は、字堀川の石切り場の海岸。



下の写真2枚は、養殖棚で育てているアーサ





2. イノー ツツジ

とても小さい奥武島だが、変化に富んでいて豊かだ。人口も1000人と多く、人口密度は、那覇に匹敵するぐらいではなから



うか。

島の南側に行くときは、きまってイノーに出る。歩きにくい岩が、かえって魅力を感じさせる。左上写真

奥武島と対岸の志堅原・堀川を隔てる海は、ダイビングの入門レッスンの場として活用されている。右上写真

時には、島の中を散歩することもある。

お庭に美しく咲いているツツジの写真をとらせてもらった。



3. 龍宮周辺

私たちがしばしば訪れる奥武島龍宮。

いつもは、龍宮から見た「ニライカナイ」(だと私が思う)の方向の海を撮影するが、今回は周りから龍宮を撮影した。



前ページ下の写真の左側の岩の上に、龍宮の拝所がある。右の岩が、拝所から見るとすぐそばに見える「感動的」な岩。

上左の写真は、イノー側からみた龍宮



上右写真は、龍宮の脇の海岸から太平洋をのぞむ

左の写真は、龍宮のすぐ近くのサンゴ礁まで来る
グラスボート